



法学研究所第48回シンポジウム

# 政治神学と例外状態

カール・シュミットの『政治神学』の冒頭の「主権者とは例外状態について決定する者である」という有名なテーゼは、どのように理解すべきか？法哲学・政治哲学的にどのようなことを含意しているのか？

本講演は、彼の政治神学的な「例外状態」観のベースになっていると思われる『政治的ロマン主義』と『独裁』も視野に入れながら、これらの問題を総合的に考察するものである。「例外状態」を起点とするシュミットの「法」概念がケルゼン等の法実証主義といかに異なるのか、「主権者」の「決断」によって「正常＝規範性」が生み出されるとするシュミットの議論が現代思想にどのような影響を与えているのかについても検討する。

2013年11月2日(SAT)

15:00～17:00

関西大学千里山キャンパス  
児島惟謙館1階第1会議室

聴講  
自由

講演

仲正 昌樹 金沢大学人間社会研究域法学系教授

討論

松生 光正 例外状態と法研究班委嘱研究員  
九州大学大学院法学研究院教授

司会

竹下 賢 例外状態と法研究班研究員  
大学院法務研究科教授

お問い合わせ先

関西大学研究所事務グループ

〒564-8680吹田市山手町3-3-35  
TEL:06-6368-0329 FAX:06-6339-7721  
E-mail :hogakuken@ml.kandai.jp